



新年のごあいさつ

株式会社 シイヤライズ
代表取締役社長 椎谷 亮

日頃よりご愛顧を賜っておりますお客様、お取引先の皆様、穏やかな幕開けとなりました2025年をいかがお過ごしでしょうか。

弊社は、本年も無事故・無災害にて新たな年を迎えることができました。旧年中お世話になりました皆様には厚く御礼を申し上げます。

「辰」の字のごとく「激震」で始まった昨年とは違い、今年は穏やかな新年となりました。今年の干支の「巳」は、脱皮に象徴されるような治療・再生のシンボルとされているそうです。新年に思うことはたくましい生命力を持つ蛇のように、日本中、世界中、暗い話題から脱却し明るい日々を送れることを願うばかりです。また、蛇といえば豊

かさや金運を司ることで有名です。昨今の経済状況は…物価高により、何かと不憫なことも多くなりました。弊社は、社員、お客様、三方の豊かさを追求することが使命です。こんな時だからこそ、本年巳年はこの使命を果たすべく一層のサービス向上と従業員満足度を共に実現していきたいと思っております。

無駄や悪しきものは脱皮のように振り払い、本年も地域とお客様のために努めてまいりますので、変わらぬご愛顧のほどをよろしくお願いいたします。



干支の板金折り紙「巳」▲

内装リフォームにシロアリ駆除、エクステリア工事も承ります! 板金工事だけでなく、シイヤライズの広がる工事品目

決算まで残すところあと数か月、今期を振り返ると板金部門以外のエクステリア工事や消雪井戸工事、大工が大活躍のリフォーム工事・シロアリ防除工事が相次ぎました。

特に「シロアリ防除&建物復旧工事」は、信頼できる専門業者さんとのお付き合いを基に、当社の寮や社員の身内の家の工事で施工経験を積んでおりましたので作業手順や対応もスムーズです。

シロアリ駆除は、被害状況の確認・見極めがとても重要です。蟻害を受けた木部だけの駆除では、他の木部や土壌部にシロアリが移動し、さらに蟻害箇所を拡げることになるため、建物の床下全体の木部や土壌部、さらにコンクリートの下の土壌部にも薬剤を施すことが重要です。また薬剤も、(社)日本しろあり対策協会認定の人体にほとんど影響のない低臭薬剤を使用しているため、施工後ご家族やご近所様にも安心。加えて、防除剤を施工してから基本的に5年間の再発処理保証と賠償責任補償がありますので、安心してご依頼いただけます。



▲床を剥くとシロアリが…

見積り依頼が入ったら、まず床下を点検し、蟻害が確認できれば、建物の床面全体への薬剤防除、シロ



▲床下のツカ(写真:上)や大引き(写真:下)が蟻害でボロボロ

アリに食い荒らされた大引きやネタ・床板の撤去と復旧を、お客様の身になって見積もりをいたします。この際、お客様の要望で湿気を呼びやすい畳敷きの和室をフローリング材の床にリフォームすることが多いです。

しかし、基礎部分にはどうしても作業員が入れない箇所がありますので、いざ工事してみると「こんなところまで被害が!」とか「こんなに木がボロボロに…」という場合がよくあり、追加工事が発生しがちなのですが、その際はお客様ご本人にきちんと状況をご確認いただき、しっかり説明した上でご判断いただいておりますのでご安心ください。

「羽アリが出た!」「床がフワフワする…」など、ご心配の際にはお声掛けください!

署名活動が新潟日報で紹介されました/1月「新発田に映画館をつくる会」

昨年10月、椎谷会長を代表に「新発田に映画館をつくる会」が結成され署名活動を開始しました。事務局は当社です。

もともと椎谷会長は交友関係が広く普段からお客様が絶えないのですが、数か月前からでしょうか、いつものお客様がいつもと違う雰囲気をもたせて会長を訪ねていらっしゃる方が度々ありました。その方々が映画館をつくる会の結成メンバーさん達です。

映画館をつくる会は、「阿賀北地域の文化の灯を守りたい!」という強い思いを掲げ結成されましたが、そのきっかけとなったのが富山県砺波市の事例です。

新発田と同様に『市街地に何軒かあった映画館がすべて閉館し、思いきって出掛けないと映画が見られない状況』だった砺波市に、市民の熱意が叶って映画館がオープンしたのです。

砺波市は富山県西部に位置する人口約5万人の市ですから、新発田市の半分くらいの人口になります。となれば、「砺波で実現できたなら、新発田にも映画館ができるのでは!」が、原動力のひとつとなったことは言うまでもありません。

署名活動の開始以来、社内で署名の進捗状況が日常会話になりました。私たち社員も、小さい子連れて新潟市の映画館へ行くのは結構つらいとか、映画好きの親が車で遠出するのが心配、仕事終わりの夜に映画が観られると嬉しいのに…など、思いや願いは様々ですが、「新発田市に映画館ができるかもしれない!」と大いに期待しています。

映画館をつくる会による署名活動は3月末まで実施予定です。ご協力いただける方は当社へお問い合わせください。



▲2025年1月22日 新潟日報に掲載

(株)磯部ハイテック様 第5恒温工場新設工事/12月長い工事期間を経て、ついに完成!おめでとうございます!!

昨年の2月から工事を手掛けておりました、佐々木の工業団地にある磯部ハイテックさんの恒温工場が秋に完成し、稼働が開始されました。

当社は、屋根・外壁・雨樋等、外装一式を請け負い、担当した外装部分は5月中には終わっていましたが、設備工事や機械の搬入などを含めると約10か月と長期間に及ぶ大規模工事でしたので、関係者の方々にはほっとされたことでしょう。

一が、今になって「恒温工場」と聞くと、「はて?恒温とは??」となりました。「高温」ならまだしも、「恒温って、学生時代に生物で習ったよな～」程度で、日常ではほとんど馴染みのない単語です。

改めて調べてみますと、恒温工場とは『空気調和や冷却等により、一定の温度に保たれた工場』のこと。特に加工精度を求めものや熱膨



高さ・大きさ共に今期一番の大規模工事となりました▲(ドローンで撮影)

張率を受けやすい加工品は、恒温環境で加工することが重要になります。例えば、鉄は温度が10℃上昇すると膨張して約0.1mm伸びてしまい、アルミは鉄の2倍の熱膨張率です。夏と冬の気温差が30℃と考えると、その誤差はとんでもないことに…。そのため、精度が求められる部品は温度変化を抑えた環境下での加工が必須となるのです。

この工場工事が大規模だったことでもあります。導入したてのドローンで屋根張り風景を撮影させていただいた思い出もあり、今年度の記憶に残る工事となりました。

板金折り紙教室 年末にイベントや出張教室相次ぐ 今年もたくさんのお会いがありました!

- マイスター教室** ●二葉小学校 6年生(9/10) ●七葉小学校 4年生(10/25)
●亀田中学校 2年生(10/4、12/6)
- 出張教室** ●菅谷コミュニティセンター(10/30) ●五十公野コミュニティセンター(12/17)
- イベント出展** ●イオン新発田店(10/26・27) ●ミナト・イン・ワンダーランド(12/7・8)

当社の秋は、「板金教室シーズンの秋」でもあります。というのも、自社2階で毎月末に開催している定期的板金教室に加え、小中学校の職業体験マイスター教室の依頼が秋に集中するからです。

新潟市の亀田中学校、新発田市内の二葉小学校と七葉小学校は、この時期になると毎年呼んでいただけるので、定着した感じがとても嬉しいです。さらに今季は、コミュニティセンター(コミセン)への出張教室2件(各1日間)とイベント出展2件(各2日間)も加わり、板金教室スタッフ達は忙しくも楽しく飛びまわっておりました。



▲五十公野コミュニティセンターの出張教室

◆出張教室/ 菅谷&五十公野コミュニティセンター

菅谷コミセンは、好評だった昨年冬の教室に引き続き2回目の開催で、今回は鶴を制作しました。男性参加者も多く、中には自己流でアルミ缶を利用して折り鶴を折っているという方や、椎谷会長の同級生が何人も参加されていたこともあり、賑やかで楽しい教室になりました。

五十公野コミセンは、営業部長で五十公野在住の板金折り紙スタッフEさんの紹介で実現。

五十公野地区で毎年恒例だった秋の健康ウォークが熊出没の危険性を考慮して中止となったことから、それに代わる室内イベントをしたいと企画されました。

開催日が平日とあって参加者は大人だけとなりましたが、参加した理由を皆さんに聞いてみると、「以前から興味はあったけれど、近所で開催されるから思い切って参加してみた」「いつも通っている卓球教室と同じ会場なので」など、いずれ



▲イベント用の板金折り紙「手乗りの小鳥」

も地元で開催されるから…というのが理由だったようです。同じ新発田市内でも当社のある切梅が遠いと感じられている方が実際に多いのだと、改めて気づかされました。

◆イベント出展/ イオン新発田店&大かま

イオン新発田店では、大感謝祭の数あるお楽しみ企画のひとつとして、地元らしく親子で楽しめるワークショップをとのことで出展、「大かま」は新潟市中央区万代島にあった水産物の荷捌き施設だった建物を活用した多目的広場で、イベント名称「ミナト・イン・ワンダーランド winter」～学生・子ども・障がい者とみんなで作る「みなとまち新潟」～というもの。福祉・防災・環境保全に、冬なのに水辺アクティビティで楽しんじゃおう! という、盛りだくさんのイベント。当社は職業体験ブースとして出展しました。

どちらのイベントも、お客様となる



▲イオン新発田店「大感謝祭ものづくり体験教室」(写真:上)
大かま「ミナト・イン・ワンダーランド」(写真:下)

のは『家族で会場を訪れた小学生くらいのお子さん』と想定して、「五角形の星のトレイ」と新作の「手乗りの小鳥」を準備。いずれも20分程度で作れるようにと、ケガキとハサミを使う工程まで進めた銅板・真鍮板を用意しました。

特に小鳥が人気で、スタッフがお手伝いしながら職人が使う道具(平ツカミ)を使って折ってゆくのですが、ただでさえ重くて大きな道具を使うのはお子さん達の小さな手では大変なのに、持ち手のカバーさえない無骨な鉄製のツカミがつめたく冷えすぎていたようで、みんな眉が八の字に…。それでも、出来上がった小鳥を小さな掌に載せてあげると、「かわいい～!」と笑顔がはじけたのでした。

これからも、各種イベントや実演販売などに積極的に参加いたします。

長徳寺 義士堂 屋根葺き替えの記念品を製作/12月 記念の銅板折り鶴をお納めしました

歳の瀬も押し迫った12月、椎谷会長がいつものピカピカの銅板ではない、ずいぶんと真黒に変色した銅板で鶴を作ると言い出しました。

銅板を黒くするには、専用の薬品を薄めたものにくぐらせると茶や黒に色を変えることができますが、会長の持っていた銅板は、それとは比べ物にならない、本物の年月が



▲92年の風雪に耐えた銅板はこんなに色が変わるんですね!

感じられる渋い古色でなのです。実はこれ、2年前に当社で張替え工事をさせていただいた長徳寺さんの義士堂の屋根に張られていた92年物の古銅板。

ご住職や檀家の方々にとって、約百年ぶりともなる大仕事を当社にお任せいただいたのですから、「なにか記念になるものをお納めしたい!」とず～っと考えていた会長。一時は古銅板数枚をそのまま額装する案もありましたが、コンパクトで記念品

らしい、当社ならではの板金折り紙に変身させることにしたそうです。

出来あがったのは、木の台座に載せた、折り鶴と祝い鶴の3羽。

お祝いの意味と飛翔の願いを込めた鶴は、創建から長年の風雨に耐えた味わいある色と質感で、祝い鶴の裏面に銅板らしい赤色も見るができます。

長い歴史を感じられる記念品として、長徳寺さんで末永く愛でただければ幸いです。

新潟東港バイオマス発電所 新設工事/12月 県内初のバイオマス発電所 商業運転開始

2024年12月23日、聖籠町に建設された新潟東港バイオマス発電所が商業運転を始めたと発表されました。

「バイオマス発電」は、動植物などから生まれた生物資源(バイオマス)を直接燃焼したり、ガス化して発電する「再生可能エネルギー」を活用したもので、カーボンニュートラルに貢献するひとつとして注目されています。

東港で新設された発電所は発電出力5万キロワット、使用されるバイオマス燃料は、木質ペレット(製材工場で発生する端材などを破碎した木粉を圧縮・成形した燃料)とPKS(パーム椰子殻:パーム油を抽出した種子の搾り殻)です。

当社は5月の工事開始から進捗に応じて屋根や樋などの板金工事に携

わり、10月いっぱい現場を引き上げていたため、このニュースを聞いたときは正直「え?今頃??」な感じでしたが、関わらせていただいた建物の完成はやはり嬉しいものです。

運転・保守管理業務を行う東北電力さんが新潟県内でバイオマス発電事業を手掛けるのは初めてだそうで、2030年代には東北・新潟エリアを中心に200万キロワット分の再生可能エネルギー発電施設を開発する目標を掲げているとのこと。

記念すべき第一歩となった工事に携わることが出来ました。

会長作「椿」▶

